

# むかし こめ づく どう ぐ 昔の米作りの道具

こめ じ ぶんかい はちじゅうはち むかし こめ  
米という字を分解すると八十八になり、昔から米づくり  
には88通りもの手間がかかると言われていました。

## こめ づく つか どう ぐ 米作りに使う道具

Q むかし ひと どう ぐ つか こめ づく  
昔の人はさまざまな道具を使って米作りをしていました。  
つか そうそう こめ づく つか じゅんぱん  
どのように使われるのか想像しながら、米作りに使う順番にならべてください。

せん ば こき  
A 千歯扱



いね むぎ だっこく  
稲や麦などを脱穀するのに  
つか  
使われました。

すき  
B 犁



た は た た  
田畑のうねを立てる時に  
うし うま つ ひ  
牛や馬に付けて牽かせました。

かま  
C 鎌



いね こくもつ か と  
稲などの穀物の刈り取り、  
くさ か えだはら  
草刈り、枝払いなどさまざま  
よう と つか  
な用途で使われました。



つか  
どうやって使うのかな？

1.



Q ちく ご がわ しゅうへん むかし のうぎょう こめ づく りゅう かんが か  
筑後川の周辺で、昔から農業や米作りがさかんな理由を考えて書きましょう。

2.

ちく ご がわ こうずい  
筑後川はよく洪水を  
おこしているよ



答え: 1. B → C → A 2. 川によって上流から運ばれてきた栄養分に富んだ土や泥が、洪水によって平野に堆積するから など